

**【太田市】
校務DX計画**

1. 校務DXを推進する上での現状と課題

本市では、これまで以下のような教育DX化を図る中で、校務のDX化を推進してきた。

<校務支援>

<input type="checkbox"/> 校務支援システム「C4th」	全ての小・中・義務教育学校
<input type="checkbox"/> デジタル採点ソフト「リアテンドント」	全ての中・義務教育学校
<input type="checkbox"/> デジタル連絡アプリ「スクリレ」	6割程度の学校

<授業支援>

<input type="checkbox"/> デジタルドリル「eライブラリ」	全ての小・中・義務教育学校
<input type="checkbox"/> 授業支援ソフト「ミライシード」	全ての小・中・義務教育学校

<環境>

<input type="checkbox"/> 大型モニター（全ての普通教室）	全ての小・中・義務教育学校
<input type="checkbox"/> Wi-Fi（職員室と体育館も）	全ての小・中・義務教育学校

<その他>

<input type="checkbox"/> 欠席連絡・各種アンケートのデジタル化	ほぼ全ての学校
<input type="checkbox"/> 会議のデジタル化	多くの学校
<input type="checkbox"/> 授業・会議・研修のオンライン化	多くの学校

令和7年度「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本市の現状は、群馬県全体の平均よりも低迷している結果となった。

<取組が進んでいる傾向が見られたもの>

<input type="checkbox"/> 欠席遅刻連絡のPC・モバイル端末からの受付	【R6：95%→R7：95%】
<input type="checkbox"/> 保護者へのお便り・配布物の一斉送信	【R6：44%→R7：73%】
<input type="checkbox"/> 保護者への調査・アンケート等のクラウドサービス利用	【R6：88%→R7：83%】
<input type="checkbox"/> 児童生徒への調査・アンケートのクラウドサービス利用	【R6：46%→R7：51%】
<input type="checkbox"/> 職員会議のペーパーレス化	【R6：78%→R7：78%】
<input type="checkbox"/> 教職員間のクラウド上での情報共有や連絡	【R6：66%→R7：59%】
<input type="checkbox"/> 校内研修でオンデマンド視聴の取り入れ	【R6：46%→R7：59%】
<input type="checkbox"/> 授業研究会や校内研修等でのクラウドサービスの利用	【R6：61%→R7：59%】
<input type="checkbox"/> 教職員への調査・アンケートのクラウドサービスの利用	【R6：68%→R7：76%】

<取組が進んでいる傾向が見られないもの>

●クラウドサービスやデジタルドリル教材の宿題での利用	【R6：0%→R7：5%】
●学校徴収金の口座振替	【R6：17%→R7：24%】
●生成AIの校務での活用	【R6：0%→R7：0%】

2. 校務DXの課題解決策、次世代の校務デジタル化

本市では、地域共同調達で学校デジタル基盤（次世代型校務支援システムと汎用クラウドツール）を令和10年度に導入することが検討されている。地域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、地域での活用事例や先進事例が共有されることで教職員の多忙化解消等につながる事が期待できる。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因であるFAXや押印の見直しを検討するとともに、時代に合った形の学校情報セキュリティポリシーの改定についても、先進事例を参考に進めていく。